

明煌の会

(め い こう の か い)

本年度は、新型コロナウイルス感染症が、学校教育にも多大な影響を及ぼし、臨時休業をはじめ、卒業生の皆さんにとって、高校生活最後の思い出となる運動会や記念祭バザーも中止せざるを得ない状況でした。

また、大学入試改革による共通テスト・総合型選抜・学校推薦型選抜という新たな入試制度導入年度でもありました。皆さんにとって、今日に至るまで、英語の民間試験や共通テストにおける記述式問題の導入を巡り、国の方針が二転三転し、これまでの努力が水泡に帰すような状況が続きました。

さらに、この感染症、現在は、第3波到来だと言われています。ワクチン開発もまだ不確定であり、これまでの日常を取り戻すまで、まだ暫くは時間を要すようです。まさに、試練の連続と言っていい三年間だったことでしょう。

そんな中でも、皆さんがキラキラと煌めき明るく活動していた姿がとても印象に残っています。

また、「神は乗り越えられない試練を与えない」「神は乗り越えられる試練しか与えない」とよく言われますが、まさに、その通りだと思います。

本校の象徴でもある明けの明星は、明け方ひときわ美しく煌めく光を投げかけながら朝の訪れを告げ、人々に今日を生きる力と喜びを与えるとともに、キラキラ輝く美しさから、英名で、愛と美の女神「Venus」と名付けられています。今は、一刻も早く、平穏で明るく煌めく時が訪れることを願わざるを得ない情勢です。

こうしたことから、卒業名は、「明煌の会」と名付けました。

言うまでもなく、「明るい」は、曇り、陰りがなく、はっきりと明るいさま、「煌めく」は、きらきらと光り輝く、華やかで人目をひくという意味であり、星の煌めきだけでなく、知性の煌めきと表現される場合もあります。こうした意味合いからも、卒業生の皆さんにピッタリ当てはまる二文字だと思いました。

さらに、この二文字は、「光明」「煌煌」という言葉としても使われ、それぞれ、「明るい見通し。希望。」「眩しいほど明るい様子。花などが光るように美

しい様子。」という意味があります。

「艱難は忍耐を生じ、忍耐は練達を生じ、練達は希望を生ず。」という言葉があります。私たちは、現在、艱難と忍耐を強いられた生活を送っていますが、一縷の光明を見出し煌煌とした時が必ず訪れるという希望を持ち乗り越えていきたいものです。

あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずで、神は真実の方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。
(コリントの信徒への手紙一 10-13)

そればかりでなく、苦難をも誇りとし、わたしたちは知っているのです。苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということ。
(ローマの信徒への手紙 5-3,4)

私たちはさまざまな苦難を経験します。だれでも思いがけない病気や考えてもいなかった災いに襲われる可能性をもっています。そして苦難の中から逃れたい、どうにかして元の生活に戻りたいともがきます。しかし、主が苦難の中で私たちに与えようとしておられるのは、私たちが希望を誇り、苦難を誇るという勇気ある生き方です。苦難は希望に至る入口です。希望を達成するためには、苦難と忍耐と練達という行程を経ていきます。私たちは人生の苦難の中で、忍耐を学び、人生に熟練していくのです。そして人生の熟練が、鍛えあげられた誇らしい希望を生み出すことを教えてくれています。

現在の苦しみは、将来わたしたちに現わされるはずの栄光に比べると、取るに足りないと思わします。(ローマの信徒への手紙 8-18)

わたしたちは、このような希望によって救われているのです。見えるものに対する希望は希望ではありません。現に見ているものをだれがなお望むでしょうか。わたしたちは、目に見えないものを望んでいるなら、忍耐して待ち望むのです。
(ローマの信徒への手紙 8-24,25)

【マリ・テレーズ・ド・スピラン】

過去の様々なことは、将来の恵みの保証です。